

鴨川納涼床絵図

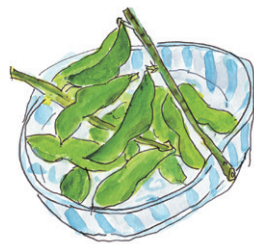
山下 元(乙訓)

水彩 75cm×55cm



年経るごとに夏が暑い。では、昔の夏はましだったか。いやいや、今よりずっと暑かった。思えば、冷房機というものが身近にはなかったのです。陽が落ちて風が凪いだ頃の、あのどうしようもない暑さ。我ながらよく耐えたものでした。三条から五条までぎっしりと並んでいる納涼床は、夏の酷暑遺産という気がします。

鴨川の本流に沿って狭い側副路が流れ



ていて、その水の中に納涼床の脚は涼しく立っています。床下は暗く、水鳥たちも来ています。どの座敷からも歓談の音が漏れていますが、納涼床の人々の恰好は意外にスマート。昔のヘトヘトの夕涼みでなく、おしゃれ。そうだ、皆、冷房機のある帳場や控室から、納涼床に出て来ているのだった。

令和時代の納涼床を描きました。

残暑お見舞い申し上げます

2023年 夏
京都府保険医協会 役員・事務局一同

望郷の思い

遠藤 裕(北)

豪放磊落な李白、沈思黙考な杜甫の故郷を思う歌が『漢詩100篇』に載っていました。

頭を低れて故郷を思う「静夜思」李白

牀前月光を看る、疑うらくは是れ地上の霜かと。

頭を挙げて山月を望み、頭を低れて故郷を思う。

〔訳〕寝台のあたりに月の光が差し込んできて、あまりの白さに霜が下りたのではないかと思った。頭をあげて山にかかる月を眺めていると、故郷への思いが募って、ひとりでに頭がたれてくる。

山は青くして花燃えんと欲す「絶句」杜甫

江は碧にして鳥愈いよ白く、山青くして花燃えんと欲す。

今春看すみす又過ぐ、何れの日は是れ帰年ならん。

〔訳〕川は新緑に映え、鳥の白さがいちだんと際立つ。山は緑一色で、花は燃えんばかりに咲いている。今年の春もあつという間に過ぎ去って行く。いったい、いつになったら故郷に帰れるのか。

2人の思いが、ひしひしと伝わってきます。

守屋洋著『日本語力がつく漢詩100篇』角川マガジンス



銷夏特集

京都を知らう 医史編(2・3面)
会員投稿 (1・4面)

ご用命は
アミスまで

- 医師賠償責任保険
- 休業補償制度(所得補償、傷害疾病保険)
- 針刺し事故等補償プラン
- 自動車保険・火災保険

TEL 075-212-0303



「鍾馗」の掛け軸

医療法人
井上医院
井上 雅史医師

鍾馗さんで病魔退散 トラウベで思う着衣検診

伏見区の醍醐寺の側にある医療法人井上医院。院長の井上雅史医師に、井上医院で大事に残されてきたものについて紹介していただいた。

古いものを一つ、準備した。医業系信仰対象は鍾馗さんか神農さんが多い。狩野祐清英信(1717~1763年)による「鍾馗」の掛け軸(絹本墨画淡彩)を示す。獅子に乗る鍾馗は江戸時代中後期の狩野派の様式とのこと。新型コロナ感染の流行時には、病魔退散を祈念して、つつい床の間に掛けてしまった。

京都の屋根に鍾馗さんの像を時々見かける。向かいの鬼瓦が追い払った邪気を、鬼より強い鍾馗さんが打ち返すのだそう。災いの種のラリーは避けるべきだ。屋根の上はバイオリン弾きが穏当である。



京都には歴代受け継がれてきた医療機関が多くある。医院にはその地域で、それぞれ歩んできた物語があつて今がある。医院に残されている記録や記憶を通して、当時の京都の町の暮らしや様子、医療状況を知るとともに、医院の歴史的な基盤がどのようにつくりだされてきたかを紹介する。今回、京都市伏見区の医療法人井上医院と藤田医院に聞いた。



井上雅史医師(自画像)

のだ。「立て直し」や「起爆剤」の意味で使われる「カンフル

剤」(独:Kampfer 英:camphor) はまさに樟脳製剤のこと。昔は蘇生目的の注射薬(手塚治虫著『ブラック・ジャック』で見たことあり)であり、現在も外用薬として保険収載されている。



トラウベ型聴診器

もう一つは曾祖父のトラウベ型聴診器。水牛の角で作られていた。聴診器の原型(筒型)を発明したのはルネ・ラエンネック(Rene Laennec 1781~1826年)で、胸・腹部接触面を大きく広げて、集音効果を高めたのがトラウベ(Ludwig Traube 1818~1876年)だそう。今年(視診は除く)に関する

井上家の歴史

井上家の先祖は、清水坂を下り東大路通の北、安井寄りの所が存在せず、地域医療は警察が仕切っていた。幸一は開業医の傍ら京都府警察医を兼任していた。「中道(または広道)の井上」の「安

0人。当時の往診範囲は山科全域、醍醐街道沿いの石田、日野、小栗栖、宇治は笠取までと広く、主に人力車が使われ、山を越える時は山駕籠も使用された。

三代目謙一も、醍醐地域の複数施設の医療責任者を兼任していた。昭和30年代は自宅での看取りが多かった。日本人の約90%以上は自宅で行なっていた時代だ。看取りの対応に加え、カルテ整理とレセプト作成などの保険請求業務は手作業のため、煩雑を極め、徹夜仕事も珍しくなかった。

今、雅史医師が井上医院を継ぐ。井上医院が醍醐の地に移り今年で100年を迎えた。

洋医初代の幸一がこの地で明治11(1878)年に開業する。その後明治44(1911)年、東大路が拡張されることになり、山科西野山に転居した。幸一は西野山で最期まで診療を行った。この時代は診療日や診療時間の掲示はない。患者の来院があれば診

毒などの性感染症に多く効くと評判だった。医村だったため、息子の正夫を村医にと懇願され、大正12(1923)年に今の醍醐の地で開業した。昭和22(1947)年まで醍醐村での開業は他になく、正夫は村医、警察医、学校医、その他多くの嘱託医を兼ね、地域医療に尽力した。大正末期から昭和初期の醍醐村の人口は約350

今、雅史医師が井上医院を継ぐ。井上医院が醍醐の地に移り今年で100年を迎えた。



妻を誘って2回目の観賞

私のすすめる妻と2人の舞台鑑賞

人形がロボロイドを演じる「ギア」を見て

宇田 憲司(宇治久世)

に、レーザー光線により舞台装置・工場の構造が浮かび上がる。闇に沈む暗黒の宇宙空間から光に輝く楽園世界が現れるかのよう。その対比が鮮やかである。次に黄のブレイクダンスが梯子段を降りれば、1階中央に歯車型の「ギア」があり、激しい動きのダンスで静と動との対比を見せる。セリフは一切なくボディーランゲージで、青のマジックは、その名の通り得意げにマジックショーを展開して、緑のジャグリングはジャグリングの芸で舞い踊り、観客の目を楽しませ、物語を伝えてくれる。主人公は純白のドレスを身に纏う人形のドールで、生産ラインから箱入りで舞台に舞い落ちて来る。取り出されると、瞬く間にかわいい人形のロボロイドに変身してロボロイドを演じてくれる。労働ロボロイドたちはロボロイドを分析・認識し、触れ合い、まさか、性的身体的接触にまで至れるラブドールではなからうが、遂にはどんなハッピーエンドへの大団円を呈するかと期待させる交流である。しかし、ドールはその内

近未来のこと、我々が種ホモ・サピエンスも滅亡して、生き残った4台の人間型ロボロイド「ロボロイド」。赤ロボロイドのマイム、黄ロボロイドのブレイクダンス、青ロボロイドのマジック、緑ロボロイドのジャグリングが、毎日夜明け前、無言の内に起き上がり、半端壊れた玩具工場に集まって来る。舞台は2階建てで、赤のマイムがバントマイムで2階のドアに押し入り、肘、手、膝、足ときこちないロボットの動きに見せつつ、実はスムーズな関節の動きで、大変に美しい。2階の電源スイッチが押され梯子が引かれて、生産ラインが始動する。薄暗い闇か



心ですでに人間理解用のプログラムが導入されており、過度の人間理解対応とヒューマノイド的接近とを求め、アンドロイドならぬ労働ロボロイドは変調を来し、玩具工場の人工頭脳との調整も狂いだし、空調装置から、ドールを印刷した紙製品が大量に生産・排出され舞台は紙だらけで、あつと驚く観客たちとなる。ついにどのロボロイドも交流を拒否し、絶望の内にドールは元の不動の人形に戻り、箱に詰められ、沈黙の内に舞台が閉じる。粗筋を読み進んでも、観劇に行く気分までは湧きません。この無言劇の上演はかなり以前からあり、一度鑑賞しなければと考えていたが、当院の看護師さんを見て、再鑑賞引券を持ち帰って勤めてくれ、2022年11月11日に1人で初めて観た。とても良かったので、8日程して妻も誘って(写真)2回目を観た。翌年1月には、また1人で行った。

処士を志し伏見の地で 龍馬…、種痘医、元老

伏見区周防町にある藤田医院。院長の藤田克寿医師に、長年続く医院について、先祖に関する記録をもとに語っていただいた。
(敬称略)

藤田医院

藤田 克寿医師

藤田医院の
はじまり、
儒医丹岳

1784～
1841年

主本庄伊勢守通實が医師であり漢詩文学の知識の深い丹岳の存在を知り儒官に招請する。しかし、丹岳に官仕えする意思はなく、客分待遇の師として奉行所で典籍の講義を行うこととなる。こうして伏見に移り住むこととなった。天保4(1833)年、高富侯は伏見奉行から奏者番に栄転し江戸に下ることが決まった。丹岳はこの機に官を辞し、



藤田克寿医師

そのまゝ伏見の人となった。克寿医師「丹岳は頼山陽と並び称されたが、処士を志して歴史に残さなかった人ということになっています」

坂本龍馬の
治療を施したと
される升齊

1814～
1870年

父、丹岳に似て和漢の学問に明るく、医術に長じていたといわれる。幕末の慶応2(1866)



藤田呉竹と手記

6)年の寺田屋騒動で傷ついた坂本龍馬の応急処置と治療を施したのが升齊だったと言ひ伝えられる。診療の謝礼として鰐と小柄が贈られ、鰐は後日、寺田屋の主人から、たつての懇請があり割愛したという。この鰐は京都府に寄付され京都文化博物館が所蔵している。

克寿医師「升齊の孫の藤田篤(呉竹)が祖母から聞いた話として、呉竹手記『垂髻記』にこうした記述がありますが、この史実は本当かな?と

種痘施術免許
42人の中の一人
震齊

1832～
1885年

天明4(1784)年徳島に生まれ、医家藤田義景の養嗣子となり医術を学ぶ。丹岳について、『大日本人辞書』(巻三)では「人となり簡黙沈静にして常に読書を以て楽しみとし、家の貧なるを意とせず家に在りて悠閑嘗て慍色なし、人に接して寛冲事を処するに崖異を好まず、誠に君子の風あり」と評している。儒者修行と医者修行で二度、京坂へ出かけた後、大坂に移り「漢蘭折衷医」の看板を掲げて医業を営むも、養父が病で倒れたため徳島に戻った。文政10(1827)年頃、伏見奉行の高富侯(美濃国高富藩

現在の藤田医院のある周防町で開業。明治2(1869)年、京都府でも天然痘が流行した。伏見においてもいち早く伏水種痘所が設けられた。京都府は明治7(1874)年5月、全国に先駆けて種痘法規則を布告し、種痘證符を制定、戸籍簿にその済否を記載する措置がとられた。明治8(1875)年、

京都府が初めて種痘施術免許を42人に授与した内の一人が震齊である。ちなみに明治8年度の京都府の医師数は790人(内務省衛生年報『医師員数表』)。克寿医師「震齊は実は升齊の弟(宇田健齋)が養子に入った先の宇田家の実子でしたが、宇田家がそのまま健齋を宇田家の跡継ぎとしたので、升齊がこの実子をもらい受けて藤田震齋として育て上げたそうです。震齊は周防町藤田家の祖ですが、種痘の技術はどこで学んだの

紀伊郡医師会
での存在感
脩哉

1862～
1941年

「医界の名門であり、また当時の紀伊郡医師会の元老的存在であった『伏見医史』伏見医師会、昭和54年3月31日」。当時の伏見は京都府紀伊郡伏見町と呼ばれ、伏見医師会も紀伊郡医師会と言った。『垂髻記』には脩哉が明治32(1899)年頃、北里柴三郎が主宰する伝染病研究所に4カ月程研究に行ったと記されている。当時、天然痘やコレラ(京都府でのコレラ発生は明治10年。明治19年、28年には大流行)、ペストなどの伝染病が流行していた頃で、明

実直に生きた
脩吉

1891～
1952年

克寿医師「医師であった兄2人が若くして亡くなったので、三男の脩吉が後を継ぎました。脩哉は女性関係も派手な人のようでしたが、祖父は地味な人だったと母親から聞いています。結婚で亡くなりしましたが、当時、乳児の私はその周りをうろろしていたそう



旧藤田医院と母厚子

したが、病気で弱っていた脩吉に代わって当時の伏見医師会の先生方に育ててもらった、と言っていました。兵隊にとられる年齢だったころを阪大附属医専に入って生き延びることに

地域の先生方
に見守られ、
藤田医院を
継いだ克也

1925～
2016年

克寿医師「脩吉には男の子が3人いましたが、誰も跡を継がなかった。私の母である長女の厚子と父が結婚して藤田家に入りました。『伏見医師会3大養子』と呼ばれていたそうです。インターンが終わってすぐに医院を継ぎ、まだまだ未熟で

芸術家の美意識と心通わす

大山崎山荘美術館

辻 俊明(西陣)

京都府乙訓郡大山崎町、天王山の中腹にある洋館。実業家が所有していた洋館をアサヒビール株式会社が改修し、1996年に美術館が開館した。正式には「アサヒグループ大山崎山荘美術館」と言う。涼やかな秋風の吹く晴れた午後、JR京都線山崎駅から山

JR京都線山崎駅から山に向かつて歩くこと10分、四季の風情あふれる広大な山荘庭園が迎えてくれる。春には桜、初夏の睡蓮、紅葉の秋、椿が静かに花開く冬。ここでアートな気分は一気に高まり、さらに山道を進んで英国風美術館の入口扉を開ける頃には期待感

印象派クロード・モネの代表作「睡蓮」の連作をはじめとした西洋美術作品を鑑賞後、本館2階、屋外テラスにある喫茶室からの景色を鑑賞すること。コーヒー、ビールを片手に目の前に見えるのは、木津川から対岸の男山までの緑豊かな眺望。京都の山の中にこんな洒落たカフェがあつたとは。ステンドグラス、オルゴールなどのアンティーク類で飾られた本館では、ドイツ製ディスクオルゴールの荘厳な重低音が定時になれば部屋中に響き渡る。

大山崎山荘美術館は、大正から昭和初期にかけ、実業家によって建造された英国風「大山崎山荘」を創建当時の姿に復元して開館した美術館であるが故に、建物自体が芸術品であり、そのため芸術品の中で芸術作品を鑑賞することになる。規模も質も日本の美術館と全く異なるので比較にならないが、サンクトペテルブルクの風光明媚な川沿いにあるエルミタージュ美術館の建物内部に施されている大理石の階段、彫刻、シャンデリアなどは、展示作品を鑑賞する以前に鑑賞者を圧倒してしまふ。まさに芸術作品の中に芸術作品が展示されているのである。



山道の先に美術館の正面入口が



美術館2階オープンカフェテラスからの眺め

四季折々の景色が魅力 自分のペースでゴルフを満喫

岡田 勝彦 (宇治久世)



グジャーを楽しみ、夕食はクラブハウス内のレストランで丹波地鶏、丹波牛(神戸牛)の網焼きを楽しんだりもできます。サイプレスの赤ワインはお勧めです。

夏季シーズンのスタート

これからのシーズン、ゴルフ大好きな先生方、蒸し暑い日が続きます。コースの設計者は大西久光氏で、自然と調和を十二分に生かしたアメリカンスタイルで、原則One Way方式です。Driving Rangeは350ヤード以上あり、無料でインに行ってもOKです。コースにひっそりと佇むコテージで宿泊して、ジャ

カートを引いてプレーも可能で、高齢者にはコース内に入れる2人乗りのカートも用意されています。アウト9ホールをプレーして小休憩してもよし、続けてインに行ってもOKです。

水上市にあり、自宅から1時間30〜40分のところに静

コースを闊歩する鹿たち

コース内の八重桜

新緑のサイプレス

メタセコイアの紅葉



の季節が到来し、ゴルフに最適なシーズンになります。秋は丹波の大きな栗が13番ホールで取れ、紅葉の季節には燃え上がるようなメタセコイアの林が見事です。

私の旅行記

リノベートした国鉄車両を巡る、こだわりの鉄旅

村上 匡孝 (綴喜)

す。フランス語で「旅行靴」という列車名。窓枠をカバンのように見立てて旅情を誘う絵柄や言葉の数々がデザインされています(写真2・3)。リノベートされた213系電車は専用ホームから出発の鐘に見送られます。スイーツを食べながら束の間のヨーロッパノトリップに揺られれば、そこは終点のUNO。欧風にリノベートされた小粋な客車の宇野駅です(写真4)。

水色の115系ラッピング電車SETOUCHI TRAIN(写真6)で岡山に戻り、町に繰り出します。市内は路面電車が現役で活躍しています(写真7)。今、人気を博しているのは名物電車チャギントン(写真8)。

岡山駅では現役で活躍する旧・国鉄時代の懐かしい車輌に出会えます。早晩、引退、勇退する名機を自分に重ね合わせると、非常に感慨深いものがあります。かつて「新快速」で関西を謳歌した116系が赤穂線ホームに(写真9)。気動

車のレジェンド、キハ47系が総社線(赤色車両)と津山線(クリーム色車両)に。伯備線には振り子電車381系の特急やくもが。国鉄色とJR色との共演(写真10・11)が郷愁をそそります。(2019〜2022年の鉄旅から)



今年一番の思い出

中村 佳子 (中京西部)

子どもたちが小さい頃、夏休みには毎年海水浴(時には冬休みにも南半球の時差の短い所へ)連れて行きました。お陰で私の背中がシミだらけ(後になって出てきます)。歳とともに海水浴は避け、行くなら山が多くなりました。

と諏訪湖を眺めながら向かいました。「遠くとも一度は詣れ善光寺」と言われるだけあり、参道は想像以上に混み合っていました。無名な七味唐辛子屋があり、自分好みのブレンド七味を作ってくれるというので私もお願いしました(写真1)。信州大学と共同で作った唐辛子も入れ彩りが綺麗に。

私がお日本画を習い始めたのは50歳前なので、30年余りになる。元々花が好きで、いつか自分で育てた花の絵を描きたいと思っていた。たまたま、山口華楊の

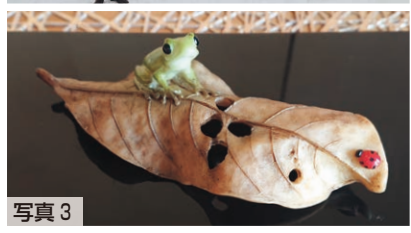
真っ赤な薔薇

家森 百合子 (中京西部)



日本画 12号M変形(60cm×38cm)

は中学校の図工の時間以来だった。しかし、絵を描く時間はいつもワクワクする。最近では花屋さんで出会って心魅かれた花も描く。『真っ赤な薔薇』はそんな絵の一枚である。



翌朝は完全な防寒対策をして出発。目指すは中央アルプス木曽駒ヶ岳。途中で小型バスに乗り換え、駒ヶ岳ロープウェイで、眼下に樹水を見ながら標高2612mの千待つています(写真3)。